



仙台ユネスコ

<http://www.unesco.or.jp/sendai/>

発行：公益社団法人 仙台ユネスコ協会

会長 見上一幸

仙台市青葉区国分町三丁目1-1
(仙台第一生命ビル 5階)

電話 022-224-2581

FAX 022-302-3406

年頭のあいさつ

会長 見上一幸



明けましておめでとうございます。

今年は新型コロナ禍の中で2回目の年明けとなりましたが、年が改まるということは、“今年こそ”という期待と勇気を与えてくれます。昨年は、我が国がUNESCOに加盟して70周年ということで、各地の記念行事の中で「民間ユネスコ運動発祥の地、仙台」の名が繰り返され、身の引き締まる思いでした。今、社会はコロナ感染症の影響も重なって、さまざまな格差や分断の顕在化を感じますが、心新たに平和な社会、持続可能な社会の構築に向けてユネスコ活動の歩を進めたいと思います。

仙台ユネスコ協会としてもコロナ禍により事業の変更や中止を迫られましたが、みなさまのご協力でその多くはオンラインで行うことができました。コロナ禍の中なればこそ「SALON & ZOOM講座」のようなオンライン事業をシリーズで企画、実施することができ、その中で海外のキリバスやイタリア（ベルガモ）との交流もできました。ネットが得意でなかった方々までがパソコンやスマートフォンに取り組み、事業に参加くださったことに心から感謝申し上げます。オンラインには会場へ出かける時間や旅費の節約という利点もありますが、対面であればこそ会うことの喜びもあります。今年こそコロナが収束して、一堂に会する事業を多く行いたいものです。

ユネスコ憲章の下で我々が希求する平和は、人類の知的及び精神的連帯の上に築かねばなりません。SDGsの「誰も置き去りにしない」という考えとESDで謳われた「つながる」を大切にして、みなさまが親しみの持てる民間ユネスコ活動を目指したいと思います。

キリバス民間ユネスコ協会設立支援準備プロジェクト

1/29 キリバス×仙台オンライン文化交流会（収録）

「私たち仙台ユネスコ協会が、キリバス共和国（以下キリバス）が直面している課題にキリバスの方々と共に取り組めることはどんなことでしょうか？」という問いに、日本キリバス協会のケンタロ・オノ氏は「お互いを知ること、理解し合うこと。友人の窮状は自分事として感じることができるから」と答えています。

国境を閉じ、COVID-19の感染者を0に抑えてきたキリバスでの感染の報が入ったのが交流会10日前、次々に非常事態宣言やロックダウンの発動の報が入ってきました。一方、日本国内での感染も急拡大したことで、交流会は中止せざるを得ない状況となりました。全会員の皆様にお知らせし、両国間の文化交流を通して相互理解を深めるユネスコらしい会を企画していたので、大変残念でしたが、今できることで最善を尽くそうと考え、日本の文化を伝える映像を制作し、キリバスの皆さんに発信することにしました。参加の3団体の皆様にも全面的な協力をいただけることとなり、予定通りの1月29日（土）、仙台福祉プラザのふれあいホールで、無観客での収録を行いました。

司会を、日本キリバス協会の小野ジョン正雄氏と針生真由美事務局長がキリバス語と日本語で担当、袴とシブタ（キリバスの女性が着ているブラウス）姿で交流を演出しました。宮城県仙台第二高等学校合唱部によるアカペラ四重唱の清々しい歌声で「鷗」「COSMOS」、高校生民謡歌手 荒瑞加さんの「米節」「南部俵積唄」の圧巻の歌唱力と振り袖姿はキリバスの皆さんの日本への関心を高めることでしょう。雀踊りを披露した誇雀会青陵健人万年青組の皆さんは、平均年齢79歳、最高齢は87歳、心を込めて折ってくださった千羽鶴と共に、キリバスの皆さんを勇気づけるものと思います。予定していたキリバスTMユースによるキリバスダンス、見上会長とキリバス教育省要人の方との対談は後日になりましたが、今回の映像を編集し、キリバスの皆さんに日本の文化と仙台ユネスコ協会の思いを届けたいと考えています。映像は会員の皆様にもご覧いただけるようにいたしますので、楽しみにお待ちください。

（プロジェクトリーダー 内藤恵子 記）



荒瑞加さんと
三味線はお父さん



誇雀会からキリバスへの祈りをこめた
千羽鶴がケンタロ氏に託されました



高校生の歌声の清々しさに乗せた
歌詞が心に沁みしました



司会の2人とケンタロ・オノ氏

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々により、1947年(昭和22年)7月19日、世界で最初の「民間ユネスコ協力会」として誕生しました。

SALON&ZOOM 講座

10/30 第5回 みちのく潮風トレイル

今回は講師に環境省から渡邊元嗣氏をお招きし、『みちのく潮風トレイル』誕生の経緯からルートが開通するまでを学ぶ企画としました。渡邊氏は登山・トレッキングの経験が豊富で登山ガイドの有資格者、2018年に環境省に入省し令和3年4月から現職の東北地方環境事務所、(併任)名取自然保護官事務所の自然保護官として活躍されています。



講師の渡邊元嗣氏のお話に引き込まれました

はじめに日本の公園の種類、体系図から歴史的背景・海外での取組まで説明があり、国立・国定・都道府県立公園を『公園』として定義、『質と持続可能性の向上』という目標と役割が明確で興味深いお話でした。

本題の『みちのく潮風トレイル』は、東日本大震災後に環境省がグリーン復興プロジェクトの一環として東北太平洋沿岸地域の復興のために整備した、青森県蕪島から福島県相馬市松川浦まで(4県28市町村)の沿岸1,025kmをつなぐロングトレイル(長距離歩道)です。道は地域にある里道や生活道など既存の道をつなぎ、地域の自然環境や暮らし、震災の痕跡、利用者と地域の人々を『結ぶ道』となることを目指しています。ルートが開通するまでの経路の選定には、地域の産業や文化にふれる旅、そこで暮らす地元の皆さんと交流出来る旅を目指し、地域住民の方々とのワークショップやモニターツアーなども実施、地域を巻き込んだ取組だったそうです。各地にビジターセンターが設置され、各ルートの資料や情報などの提供も完備されています。

次は是非このみちのく潮風トレイルに、一步踏み出す実践が楽しみです。(参与 橋本英子 記)

12/18 第6回 Xmasスペシャルライブ

2021年の講座納めは、「Xmasスペシャルライブ」と題し高見秀太朗さん(ピアノ)と水谷ヒカルさん(ヴァイオリン)をお迎えいたし、久しぶりの生演奏を楽しみました。当初会場は、事務局を予定していましたが、12月は丁度第5波の収束時期にあり、何と日立システムズホールにて会場一体形の演奏会実現となりました。

高見さんは「100万人のクラシックライブ」のピアニスト&スタッフを務められ、子どもから高齢者まであらゆるコミュニティをつなぐ音楽環境づくり、また東北はじめ全国の小中学校で音楽教育支援を実施している若手演奏家です。水谷さんは音大3年在学中で、活動に賛同され登録アーティストとして活躍されています。

当日は、お二人の息のあったクラシックを中心とした音楽に、会場の皆さまと共に心躍る時間(とき)を過ごすことができました。一曲ずつ優しい語りで詳細な紹介があり、音楽をより身近で興味深いものとして聴くことができ、会場の皆さまからも感動が2倍になりました、心が躍りました等々、嬉しいお言葉が多く届けられました。

今回の企画にあたり、お二人の演奏家からの「感動を共有することから笑顔の輪を広げ、皆さまとあたたかな時間をご一緒できれば幸いです」とのメッセージ通り、音楽を介し、演奏家と会場の皆さまお一人おひとりがひとつとなり、長引いているコロナ疲れから一瞬でも解放された演奏会となりました。

生の音色にときめく演奏会を、近い将来また開催できることを切に願います。

(理事 須佐涼子 記)



若い二人の演奏家
久しぶりに生の演奏に心が癒やされました

ユネスコ子ども絵画展

第24回「絵で伝えよう!わたしの(町の)たからもの」

今年度24回目となったユネスコ子ども絵画展が2022年1月18日(火)から22日(土)にかけて、東北電力グリーンプラザ・アクアホールにおいて開催されました。作品募集期間は2021年9月21日から10月15日、応募・展示作品は小学校34校、中学校14校から計173点となり、子どもたちのみずみずしい感性による各作品が、見る人に新たな感動を呼びました。寒い中、5日間で計656人のお客さまがご来場くださいました。昨年は、開催直前に新型コロナウイルス対策のため痛恨の思いで開催を断念しましたが、今年は、最終日の表彰式は残念ながら中止せざるをえなかったものの展示会自体は大好評のうちに実施することができました。開催にあたりご後援くださった宮城県、仙台市をはじめ各行政機関、各社の皆さま、東北電力グリーンプラザさま及び会員の皆さまのご尽力ご協力に深く感謝申し上げます。来年も1月に開催する予定ですので、奮ってご応募くださいますようお願いいたします。(西條 清和 記)



ユネスコ会員企業紹介

(株)理建

株式会社理建は、1995年の設立以来、「未来へ、いい仕事・・・」というスローガンのもと、シーリングやリニュー



ーアルによる建物を「守る」という技術やノウハウで、快適な環境づくりをサポートしています。快適な環境づくりを行う上で、SDGsの達成に向けた活動として「住み続けられるまちづくりを」「つくる責任つかう責任」「働きがいも経済成長も」に積極的に取り組んでいます。

弊社は、あらゆる住宅建材を大切に、「捨てない」「壊さない」「取り替えない」を追求しています。その一環として、建物のリニューアル工事の際、外壁タイルが浮いている場合は、積極的なタイルの張替えは行いません。環境や騒音などを考慮して、特殊注入を行っています。この工法には、①タイルの再利用が可能。②騒音や粉じん、産業廃棄物を減らせる。③従来工法の仕上げより工程が短縮できる。といったメリットがあります。タイルを再利用する

ことにより、廃棄物の発生を大幅に減らすことができるので、CO₂の削減につながります。

その他、変化していくニーズ、新しい技術などに対応できるように、本人が希望する資格取得をサポートすることで、人としての成長、スキルアップにつなげています。

弊社では、快適な環境づくりはもちろんのこと、そこに暮らす人々の安全や健康、そして家族の笑顔、そんなかけがえのないものを未来へしっかり守っていくために、私たちは長年培った技術やノウハウを最大限に発揮して、これからも新しいことに積極的にチャレンジしていきます。



(株)トラベルe旅

代表取締役 佐藤 芳郎



コロナ禍における旅行業界の現状

旅行業界はいまだかつてなかったほどの苦難を、2年間味わい続けております。2019年秋、中国・武漢でおきた肺炎騒ぎは、2020年はじめには、あっという間に世界を席卷、新型コロナウイルスとして、世界中の人々をウイルス恐怖の世界に落とし込みました。人の移動が制限される中で、すべてのツアーが取り消され、その年の夏迄、そのキャンセル対応作業におわれました。その後、政府の肝いりではじめられた、Go Toトラベル事業や自治体の県民割は、コロナ再感染のため、道半ばで中止に追い込まれたことは承知のとおりです。その後、旅行業界に特化した政府の支援施策政策は一切行われておりません。

2019年まではアウトバウンド（海外旅行需要）が2000万の出国者数を数え、インバウンド（訪日外国人旅行）も東京オリンピックを皮切りに4000万の目標を設定していた勢いから、なんと、2020年の統計では、アウトバウンドが317万（▲84.20%）まで落込み、インバウンドの数字も泡のように消え入りしました。

弊社は主にアウトバウンド（海外旅行）を多く扱ってきた旅行業者でありましたので、ここ2年間、会社存続の危機に直結しているわけでありませ

の中で、いかに耐え生きぬかを模索しているのが毎日であります。

～今まで通りの仕事はもうない～という前提で、最低限の経費支出を押さえる。政府関係の助成金・補助金制度の有効活用を行う。また、このような中にあっても、旅・移動を必要とするお客様を模索する。アフターコロナ又はウイズコロナを見据えた旅のありようを考え、身近な人流を伴う企画作成を心がける。密を避け、少人数での好奇心をくすぐる旅を企画作成斡旋していく。さらに生き残りをかけるための施策を行うには、永年培ってきた、顔の見える、世界のサプライヤーとのつながりを生かした、新しい旅のサービス展開を目指します。

コロナ終息までは、あと2年かかるともいわれる中で、心の折れることも、多々ありますが、『夜明けの来ない朝はない』『乗り越えられない苦難は与えられない』という信念の下、このコロナ時代を乗り越えていく所存です。これからも、皆様の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。



密を避けた少人数の旅行

2022年1月28日撮影

10/22 ユネスコカレッジ講座 オンライン開催

昨年中止になった貞山運河シリーズ第4弾で、北上川治水と北上運河にフォーカスを当てました。

石巻市教育委員会の泉田邦彦氏からは、藩政になって川村孫兵衛の北上川改修工事が始まり、新田開発によるコメ生産量の増大や舟運による物流活性化で石巻湊は奥州随一の湊として大いに繁栄した事等、石巻市保有の古文書(毛利コレクション)を読み解きながら説明していただきました。なおこれらの古文書は11月3日オープンした石巻博物館に展示されています。郷土史家の木村紀夫氏からは、明治政府が着手した野蒜新港開発について講演していただきました。東北を一大貿易拠点にする大プロジェクトです。最初に新港建設に必要な石材運搬ルート整備の為北上運河を開削、第一期工事を完成させました。しかし第二期工事直前に襲った台風で突堤の大半が決壊、港湾機能が完全に失われてしまいその後復興を断念、本プロジェクトは中止となりました。

当初の企画では1日目 泉田、木村両氏の講演を拝聴し、2日目バスで現地を見学、日本考古学協会会員の高橋守克氏に解説ガイドをしていただく予定でした。しかし今回はコロナ感染予防を考慮し現地踏査ができませんでした。高橋守克氏には踏査ルート案に基づき現地風景スライドを投影していただき、まるで現地で説明を聞いているような感覚で講演内容をしっかりと把握することができました。

参加者は40名(スタッフ含め)、先人の努力の賜物「地域遺産」を学びました。(鈴木かつら 記)



青年部だより

12/5 オンラインキャンプ

2015年から毎年夏に開催しておりました宮城ユネスコ子どもキャンプの開催が、新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続中止になったことを受け、2021年12月5日にZOOMにてオンラインキャンプの開催を致しました。



宮城教育大学学生が2名参加、最近のお気に入り紹介でアイスブレイク

小学6年～中学生の子どもたちを対象とした開催を見込んでおりましたが、残念ながら当日子どもたちの参加希望はなく、当初子どもと交流をするスタッフとして参加希望をしてくれていた大学生2名が参加してくれました。

参加をしてくれた大学生の2名にとっては、結果的に青年部のみとの交流となってしまいましたが、当日は予定とは内容を多少変更しつつ、アイスブレイクや簡単なゲーム等の交流を図り、ありがたいことにイベント終了時には「楽しかった」「また活動があれば参加したい」等の言葉をいただくことができました。

2年間のキャンプ開催中止により、子どもたちの青年部の活動に対する関心も薄れているように思います。今回参加者を集められなかったことを反省しつつ、こ

のコロナ禍においても意義のある活動ができるよう、これからも頑張っていきたいと思います。

(青年部 高松美聡 記)

12/11 ベルガモ大学大学院オンライン修論発表会

12月11日、ベルガモ大学大学院交流における集大成として、イタリアの院生の皆さんに修士論文を披露していただきました。院生の皆さんはそれぞれ日本に関する論文を執筆し、文学から生産活動の運用方式まで、多岐にわたる研究発表をなさいました。

わたしたち日本人にとっての当たり前が魅力的に見えてきたり、日本が誇る技術を改めて認識したりする、有意義な機会だったように思います。中でも、仙台藩の先人、慶長遣欧使節支倉常長に目を向けた論文には感嘆しました。執筆中には青年部に意見を投げかけ、支倉氏に対する若者の認識と齟齬がないように、と注意を払う彼の真摯な姿勢に感銘を受けていたので、披露は感無量でした。

卒業を迎える学生さんとの交流は一旦終止符を打ちますが、今後もベルガモ大学との重要な時間を設けていきたいと思っています。造詣が深い学生さんたちの卒業に、少しでも花を添えられていたら幸いです。

(青年部 菊地里帆子 記)



慶長遣欧使節をテーマにした発表。パワーポイントでのプレゼンテーション作成も発表も全て日本語で行ったシモーネさん

これからの行事予定

- 2022年度定期総会
日 時：5月27日(金)10時～
- 民間ユネスコ運動の日
開催日：7月9日(土)
- SALON&ZOOM講座は2022年度も継続します。2ヶ月に1回程度開催し、メールで随時お知らせいたします。
- 2022年度東北ブロック研究大会
主 催：青森ユネスコ協会
開催日：10月8日(土)予定
場 所：ウエディングプラザアラスカ
- 2022年度第78回日本ユネスコ運動全国大会 in 木更津
開催日：11月26日(土)予定
場 所：かざぎアカデミアパーク

会員募集 あなたも参加しませんか！

公益社団法人仙台ユネスコ協会は、世界で初めての民間ユネスコ運動の団体として、1947年7月19日に誕生しました。あなたのご参加をお待ちしています！

団体会員(一口) 年会費	20,000円
個人会員(一口) 年会費	5,000円
青年部会員(一口) 年会費	2,000円

仙台ユネスコ協会 会員数

団体会員	85
個人会員	156
青年部会員	20
合 計	261

(1月末現在)

【編集委員】

松坂 宏造 小泉知加子
伊藤 律子 岩山 浩一
菊池 健一 佐藤 皇季
千葉 雅保

【編集後記】

ユネスコ会報468号をお届けします。10月から1月までの活動報告をまとめました。コロナ禍で次々とイベントが中止せざるを得ない中、キリバス×仙台オンライン文化交流会は無観で収録を行いました。各講座はオンライン開催で継続しています。仙台ユネスコ協会は親しみのある活動をしています。お仲間に加わって一緒に活動しませんか。 仙台ユネスコ会報編集長 小泉 知加子